

子どもの医療費

07年9月より



就学前まで

無料になります

新学期

少人数数学級も 大きく広がります

いま鈴鹿市では、乳幼児医療費の無料化は「4歳未満児まで」となっていますが、この3月議会で川岸市長は、対象年齢を「就学前まで」に引き上げると表明しました。子育て中の若い世代の市民には、うれしい知らせです。

12月議会で日本共産党の森川ヤスエ議員が、「隣の亀山市はすでに実施、四日市市も07年度に実施予定なのに鈴鹿市は遅れている」と実現を迫り、川岸市長も「どこまでできるか検討したい」と答えていました。実施時期は

本年9月の診療分からの予定です。長年のお母さんたちの願いが、一歩前進しました。森川議員は、「1歳引き上げると7千万円、就学前までで1億8千万円財政負担が増えると、市は渋っていました。鈴鹿市の財政力なら出来ないはずはないと頑張りました。次は、いったん払ってあとから戻る、面倒な『償還払い』方式から、『窓口無料』にさせることを求めています。」と語っています。

小中学校のクラス編成での「少人数数学級」の取り組みも、この新学期から大きく進みます。35人以上の「過密学級」は、小学校1、2年と中学校はすべて解消、小3以上でも教室不足などの11学級を除いて解消されます。市費で非常勤講師の先生を多く採用しての改善です。

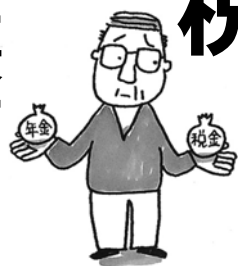
30人以下学級を求めてきた日本共産党の石田秀三議員は、「国・県が先生を増やさな



日本共産党市議団もがんばりました

いのが問題なのですが、市として独自に出来る工夫をと求めてきました。さらに先生の働き過ぎをなくし、子どもたちに行き届いた教育を進めるためには、正規の先生を増やすことが一番です。」と語っています。

今年もまた市民税増税 2年連続で12億円も さらに6月から「税源委議」で17億円上乗せ



昨年につづき今年も、「定率減税廃止」で市民税が5億円も増えます。所得が1円も増えていないのに、昨年の高齢者増税2億円、定率減税半減5億円と合わせて、12億円もの負担増になります。

6月の課税時には、市民は昨年以上にビックリすることになりそうです。こんな庶民増税をすすめた自民・公明の政治に、こんどの地方選・参院選でキッパリ審判を下しましょう。

国会でも地方議会でも、庶民増税や負担増に反対をつらぬく日本共産党を伸ばして、暮らしを守りましょう。

日本共産党

鈴鹿市は、悪政から市民を守る

「防波堤」の役目を

- 国保税、介護保険料・自己負担の引き下げ・減免を
- 生活保護や就学援助を受けやすく
- 増税分を高齢者や子ども、福祉や教育の予算に回せ

市民の暮らしをもっと12年

気軽に相談、いっしょに解決



森川ヤスエ
鈴鹿市議

日本共産党の森川ヤスエ議員は議会活動と共に、市民の生活相談活動も進めています。サラ金や税金、医療費や生活保護などの問題で困っている市民の相談に、気軽に応じいっしょに考え、解決のために奔走します。また市民の声を聞く活動の中で、大事な問題は議会でも取り上げて改善を求めます。共産党の3400人の地方議員、国会議員団のネットワークで、全国どこの地域からの相談にも応じて、連携プレーで解決をはかっています。



「日本共産党」は

市民との

約束まもる

旗印です



「森川さんは支持するけれど、共産党はちょっと」「無所属でいた方が、地域のための活動がしやすくなるのでは?」「党名を変えたら?」などの意見がよく寄せられます。

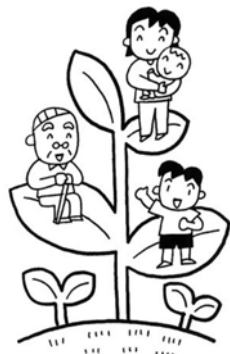
森川議員は、「平和な社会を願い、住民の暮らしを応援することが、日本共産党の精神」私はその精神が好きで日本共産党員なんです。日本共産党の名前は私が、市民との約束を裏切らない」という大切な旗印です。どうかご理解とご支援を」と語っています。

親元を離れて鈴鹿市にある大学に入学して、キャッチセールス被害にあったとき、相手との交渉や内容証明郵便の書き方などいろいろ教えてくださったって、大きな被害にあわずに済みました。無事卒業をして親の近くに帰り今はきちんと就職も出来ました。ありがとうございます。(T・H)

社宅付の職場を急に解雇され、妻と二人、車生活をしていました。共産党さんの事務所へ駆け込むと、森川議員がいました。すぐ一緒に職安へ出かけてくださったって、会社と交渉をして解雇手当を支給してもらい、何とかアパートを探すことが出来ました。その後、就職しましたが、健康保険税が払えないという、資料に目を通して保険税の高さに、これはおかしいと市役所へ出かけて、もれた手続きを整え支払える金額にまで改善をしてくれました。車の中ですごした不安な暮らしから守ってくれて本当に助かりました。(S・A)

同和問題などいいにくい不公平な問題に頑張って取り組んでもらっていると嬉しいです。「女性は太陽」楽しみに読ませてもらっています。(40代・A)

本当の中学校給食を 実現させましょう



給食検討委員会で調査したアンケートによると、中学校給食を望む保護者の数は63%、しかし鈴鹿市が実施したのは、学校給食とはいえないランチサービスです。ランチサービスは、もともと弁当を作るのが困難な保護者へのサービスという代物ですから、利用率もわずか5〜6%です。

全国では毎年、毎年、中学校給食の実施率が上がり、あるのが当たり前です。三重県でも桑名市、亀山市や津市など、合併のあった市が順次中学校給食を実施したり、検討をす

すめていることを見ても、時代の流れです。鈴鹿市だけ給食を実施しないでは、財政力では三重県でも上位の鈴鹿市が、谷間になっでしまいます。やっぱり世間並みに子どもの教育にふさわしい本当の中学校給食を実現させましょう。当面、新築移転計画を進める神戸中学校、平田野中学校から実施できるように検討をいそぐべきです。

森川ヤスエ議員は、「本当の中学校給食を願う市民の皆さんとともに、ねばり強くがんばります」と決意をあらたにしています。